

道総研水産研究本部が新たに取り組む研究課題

平成28年度に道総研水産研究本部各水産試験場が行う主な新規研究課題を、下記一覧表に示しました。

今回は、この中から重点研究課題である「日本海海域における漁港静穏域二枚貝養殖技術の開発と事業展開の最適化に関する研究」の研究概要について、ご紹介します。

平成28年度新規研究課題一覧(2016年4月1日現在)

研究制度名	課題名	年限	担当試験場
重点研究	日本海海域における漁港静穏域二枚貝養殖技術の開発と事業展開の最適化に関する研究	H28-31	中央、函館、栽培
職員奨励研究	マルチプレックスPCR法を用いた北海道産イカナゴ類の種組成解明	H28	稚内
	新しい年齢査定法の開発と安価な画像解析システムの構築	H28	栽培
	海中ヒトデ駆除技術の確立	H28	網走
	昇温処理による疾病抵抗性エゾバフソウニ選抜技術の開発	H28	稚内
	ウニ調味品の冷凍に関する基礎試験	H28	中央
	非破壊分析によるケガニの身入りやみその脂質含量推定技術開発	H28	網走
	耳石・鱗の表面分析法によるサケ海中飼育放流効果の評価手法開発	H28	さけます・内水面
	サケマス親魚の河川遡上尾数推定技術の開発	H28	さけます・内水面
	サケマス回帰率向上のためのビッグデータ取得と利活用・解析技術に関する研究	H28	さけます・内水面
	さけます養殖用飼料開発を目指した植物性原料の発酵技術の検討	H28	さけます・内水面
道東海域におけるアサリ垂下養殖検討	H28	釧路	
経常研究	生態研究を目的としたシシャモ飼育技術の確立	H28-30	栽培
	キツネメバル種苗生産の安定化に向けた繁殖制御技術開発	H28-31	栽培
	カレイの冷凍技術開発	H28-29	中央
	カシパンからの循環ろ過式水槽用多孔質素材の開発	H28-29	釧路
	ヤマトシジミの高品質流通技術開発	H28-30	網走
	道産水産物におけるヒスタミン蓄積に関する基礎研究	H28-29	網走
	さけます類の垂直感染リスク低減のための大規模洗卵システム開発に向けた基盤研究	H28-29	さけます・内水面
	さけます養殖魚の低価格餌料開発に関する基礎研究	H28-30	釧路、さけます・内水面
公募型研究	水産系廃棄物ウニ殻からの循環ろ過式水槽用資材の開発	H28-30	釧路、栽培
	DNAマーカーを利用したマコブの親子鑑定技術の開発とスポアバック効果の検証	H28	函館
	フサカサゴ科魚類(ソイ・メバル類)における人為的繁殖制御技術の開発	H28	栽培
受託研究	クロソイ未成魚の行動追跡・餌料生物利用状況調査及び餌料転換効率解明調査	H28	中央

(北海道立総合研究機構水産研究本部企画調整部 池田秀樹)

日本海海域における漁港静穏域二枚貝養殖技術の開発と 事業展開の最適化に関する研究(重点研究:H28-31)

担当機関：栽培水産試験場、函館水産試験場、中央水産試験場、地質研究所、工業試験場

共同研究機関(協力機関)：(ひやま漁業協同組合、室蘭漁業協同組合、余市郡漁業協同組合、上ノ国町、奥尻町、檜山地区水産技術普及指導所、同せたな支所、同奥尻支所、北海道庁水産林務部、檜山振興局、国立研究開発法人寒地土木研究所、函館地域産業振興財団(北海道立工業技術センター))

研究の背景・目的

近年の日本海海域の漁業生産量および沿海地区漁協組合員一人当たりの漁業生産額は、スケトウダラやホッケの資源低迷の影響も大きくオホーツク海域や太平洋海域と比べて低い。

現在、日本海海域には、利用が少ない漁港静穏域が数多く存在し、これらの養殖への活用と漁港環境の適性把握が求められている。一方、これまでに函館湾で行ったアサリの垂下養殖試験では、天然貝を上回る成長が認められ、日本海海域に適応した養殖技術の開発が期待されている。さらに地域ブランド化へイワガキ養殖のさらなる事業展開や、地元や行政からの要望が強いバカガイ及びムラサキイガイについて新たな養殖技術開発への取り組みが期待されている。本研究は、日本海海域における漁港静穏域を利用した新たな養殖事業を創生するため、養殖に適した漁港内環境を解明するとともに漁港静穏域における二枚貝養殖技術を開発し、漁業者にとって魅力ある養殖事業化プランを提案することを目的とする。

研究内容

- ①アサリ垂下養殖技術開発：アサリ中間育成技術開発・低コスト化、養殖条件・サイクル検討、養殖の効率化・軽労力化
- ②イワガキ養殖安定化技術開発：イワガキ種苗生産安定化、養殖手法の開発、成長把握
- ③その他二枚貝の養殖適性調査及び技術開発：バカガイ、ムラサキイガイの養殖適性等検討、養殖技術開発
- ④利用の少ない漁港の養殖適地診断：漁港静穏域の養殖環境調査、漁港の養殖適正評価手法の策定と診断
- ⑤儲かる養殖事業化検討調査：養殖製品の体成分分析・官能検査、シェフ・地元漁業者との意見交換、地域にあったビジネスモデルの検討



目指す成果

日本海海域におけるアサリをはじめとする二枚貝垂下養殖技術を開発する。また、利用の少ない漁港内の養殖環境を評価することで養殖適地診断技術を開発する。さらに養殖品の市場調査や品質調査から養殖事業化へ向けたビジネスモデルを検討し、養殖効率化・軽労力化研究から新たな養殖システムを提案する。

研究成果の活用

アサリをはじめとする二枚貝垂下養殖技術、漁港静穏域の養殖適地診断技術を開発し、儲かる養殖事業化調査を実施することで、新たな日本海漁業振興策としての魅力ある養殖事業実施プラン策定と地元担い手育成に活用できる。